

2018年度 第2学年シラバス

国語	P. 2～3
数学	P. 4～7
地歴公民	P. 8～15
理科	P. 16～21
英語	P. 22～23
保健体育	P. 24～25
芸術	P. 26～28

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学年・コース	単位数
国語・現代文B	村上 良	2年・文理	2単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	精選現代文B (東京書籍)
使用副教材(出版社)	新総合図説国語 (東京書籍)

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	I 部 評論 1 世界をつくり替えるため ミロのヴィーナス 小説 1 山月記	授業の様子 週末・長期休暇課題 ノート 定期考査 等
前 期 末	評論 2 相手依存の自己規定 科学的「発見」とは 詩歌 永訣の朝 等	授業の様子 週末・長期休暇課題 ノート 定期考査 等
後 期 中 間	評論 3 おじいさんのランプ 消費されるスポーツ 小説 2 こころ	授業の様子 週末・長期休暇課題 ノート 定期考査 等
後 期 末	評論 4 「である」ことと「する」こと 人間の運命と科学	授業の様子 週末・長期休暇課題 ノート 定期考査 等

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

- ・本文を読むことが基本。
- ・それぞれの文章で、作者・筆者が何を伝えようとしているか正確に読み取ることが大切。その上で自分の考えを持つことは自由。
- ・語句や漢字がわからないことには読みようもない。基本的な語彙力を充実させることが肝要。
- ・文法的な分野における関心を持つ。正確な読み取りの根拠になる。
- ・頭を常にアクティブに。体を動かすことだけがアクティブラーニングではない。
- ・現在の世の中における諸問題(課題)がどこから来ているのか。また何が話題になり、なぜ人々はその事に対する関心を持つのか、客観的に考えることのできる思考力を養おう。
- ・どうして? どういうこと? を常に持とう。

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学年・コース	単位数
国語・古典B	村上 良	2年・文理	文3理2

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	精選古典B (東京書籍)
使用副教材(出版社)	新総合図説国語 (東京書籍) 体系古典文法 (数研出版) 新明説漢文 (尚文出版)

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	古文編 説話 1 物語 1 漢文編 小話	授業の様子 週末・長期休暇課題 ノート 定期考査 等
前 期 末	古文編 随筆 1 軍記物語 漢文編 小話 詩 1	授業の様子 週末・長期休暇課題 ノート 定期考査 等
後 期 中 間	古文編 随筆 2 日記 1 漢文編 史記 1	授業の様子 週末・長期休暇課題 ノート 定期考査 等
後 期 末	古文編 物語 2 漢文編 思想 1	授業の様子 週末・長期休暇課題 ノート 定期考査 等

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

<ul style="list-style-type: none"> ・本文を音読することが基本。 ・予習は必須。(本文書き写し・口語訳) ・それぞれの文章で、作者が何を伝えようとしているか正確に読み取る。 ・基本的な語彙力を充実させることが肝要。辞典を使う。 ・文法的な分野における関心を持つ。正確な読み取りの根拠になる。漢文においては句法。 ・その当時の常識、知識を知ることにも全体像を把握する上では必要。現代とはだいぶ違う。 ・頭を常にアクティブに。体を動かすことだけがアクティブラーニングではない。
--

教科・科目		学年・コース	単位数
数学Ⅱ		2 学年（全員）	4
教科書	数研出版 新編 数学Ⅱ		
副教材	チャート式 基礎と演習 数学Ⅱ＋B		

1. 学習目標

いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分積分の考えについて理解させ，基本的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる。

2. 学習方法

- ① 授業中心の学習習慣を身につける。（宿題は必ずこなし，予習・復習を行うこと）
- ② 教科書の内容を完全に理解する。（特に，例題や公式の内容）
- ③ 定期考査、模試等の受験機会を有効に活用する。（間違い直しを必ず行い、弱点を復習する）
- ④ 間違えた問題をそのままにせず，もう一度解き直しをする。

3. 評価の観点と趣旨

①	関心・意欲・態度	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分積分の考えにおける考え方に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。
②	思考・判断・表現	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分積分の考えにおいて，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な考え方を身につけている。
③	数学的な技能	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分積分の考えにおいて，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
④	知識・理解	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分積分の考えにおける基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，基礎的な知識を身に付けている。
⑤		

4. 評価の時期及び配点

定期考査	前期中間	前期末	後期中間	学年末	
有無	○	○	○	○	
満点	100	100	100	100	
観 点	①関心	20	20	20	20
	②思考	30	30	30	30
	③技能	25	25	25	25
	④知識	25	25	25	25
	⑤			- 4 -	

教科・科目		学年・コース	単位数
数学B		2学年（全員）	2
教科書	数研出版 新編 数学B		
副教材	チャート式基礎と演習 数学Ⅱ+B		

1. 学習目標

ベクトル，数列について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに，それらを活用する態度を育てる。

2. 学習方法

- ① 授業中心の学習習慣を身につける。（宿題は必ずこなし，予習・復習を行うこと）
- ② 教科書の内容を完全に理解する。（特に，例題や公式の内容）
- ③ 定期考査、模試等の試験を大切に受ける。（間違い直しを必ず行い、弱点を復習する）
- ④ 間違えた問題をそのままにせず，もう一度解き直しをする。

3. 評価の観点と趣旨

①	関心・意欲・態度	ベクトル，数列に関心をもつとともに，それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。
②	数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，ベクトル，数列における数学的な見方や考え方を身につけている。
③	数学的な技能	ベクトル，数列において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。
④	知識・理解	ベクトル，数列における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身につけている。
⑤		

4. 評価の時期及び配点

定期考査	前期中間	前期末	後期中間	学年末	
有無	有	有	有	有	
満点	100	100	100	100	
観 点	①関心	20	20	20	20
	②思考	30	30	30	30
	③技能	25	25	25	25
	④知識	25	25	25	25
	⑤			-6-	

科目名	学年・コース	単位数
数学B	2学年（全員）	2単位

学期	単元	学習内容	重点をおく評価の観点				単元の評価規準	評価方法
			①	②	③	④		
前期中間	第3章 数列 第1節 等差数列と等比数列	1. 数列と一般項 2. 等差数列 3. 等差数列の和 4. 等比数列 5. 等比数列の和	○	○	○	○	①：各学習内容について関心を持ち、整理・考察・利用しようとする態度がある。 ②：各内容について、既習事項との関連をつけ考えとらえることができる。 ③：各内容について、整理・概略を理解し、問題が解ける。 ④：各内容の学習について、意味や公式を理解し、問題が解ける。	学習状況観察 出欠状況 提出物 小テスト 前期中間審査
	第3章 数列 第2節 いろいろな数列 第3節 数学的帰納法	6. 和の記号Σ 7. 階差数列 8. いろいろな数列の和 9. 漸化式 10. 数学的帰納法	○	○	○	○	①：各学習内容について関心を持ち、整理・考察・利用しようとする態度がある。 ②：各内容について、既習事項との関連をつけ考えとらえることができる。 ③：各内容について、整理・概略を理解し、問題が解ける。 ④：各内容の学習について、意味や公式を理解し、問題が解ける。	
後期中間	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと平面図形	1. ベクトル 2. ベクトルの演算 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 5. 位置ベクトル 6. ベクトルの図形への応用 7. 図形のベクトルによる表示	○	○	○	○	①：各学習内容について関心を持ち、整理・考察・利用しようとする態度がある。 ②：各内容について、既習事項との関連をつけ考えとらえることができる。 ③：各内容について、整理・概略を理解し、問題が解ける。 ④：各内容の学習について、意味や公式を理解し、問題が解ける。	学習状況観察 出欠状況 提出物 小テスト 後期中間審査
学年末	第2章 空間のベクトル	1. 空間の点 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 5. ベクトルの図形への応用 6. 座標空間における図形	○	○	○	○	①：各学習内容について関心を持ち、整理・考察・利用しようとする態度がある。 ②：各内容について、既習事項との関連をつけ考えとらえることができる。 ③：各内容について、整理・概略を理解し、問題が解ける。 ④：各内容の学習について、意味や公式を理解し、問題が解ける。	学習状況観察 出欠状況 提出物 小テスト 学年末審査

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学年・コース	単位数
世界史A	古市 浩	2年	2単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	帝国書院世界史A
使用副教材(出版社)	流れ図で攻略世界史 (山川出版社)

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	<ul style="list-style-type: none"> ・世界史の概要 ・人類のはじまり ・西アジア、東アジアを中心とした前近代の諸文明 	提出物 小テスト 授業観察 考査 等
前 期 末	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパの文明 キリスト教の成立とローマ帝国との関係 ・南アジア、南北アメリカの文明 	提出物 小テスト 授業観察 考査 等
後 期 中 間	<ul style="list-style-type: none"> ・一体化に向かう世界 大航海時代、宗教改革、ルネサンス ・欧米の工業化とアジア諸国の同様 	提出物 小テスト 授業観察 考査 等
後 期 末	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の芽生えと世界大戦 二つの世界大戦 ・冷戦から地球社会へ 	提出物 小テスト 授業観察 考査 等

4. 学習方法(ノートを取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

歴史は「流れをつかむこと」が大切です。「流れ」とは因果関係、すなわち原因と結果です。“風が吹けば桶屋が儲かる”という諺を知っていますね。何が「風」で何が「桶屋」か。授業では常にこのことを意識して、ノートを取ってください。そして、資料にもよく目を通すこと。絵画、写真、さらに近現代史では映像が生きた証人となり、当時の生々しい状況を皆さんに語りかけます。その語りをしっかり聞き取れる「歴史の感受性」を、この一年間で育ててくれることを期待しています。

年間指導計画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授業担当者	学年・コース	単位数
世界史 B	古市 浩	2年	2単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	山川出版世界史B
使用副教材(出版社)	世界史10分テスト (山川出版社) 世界史のミュージアム (とうほう) 流れ図で攻略世界史 (山川出版社)

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前期 中間	<ul style="list-style-type: none"> 世界史の概要 先史の世界 オリエントと地中海世界 	提出物 小テスト 授業観察 考査 等
前期 末	<ul style="list-style-type: none"> キリスト教の成立とローマ帝国との関係 南北アメリカの文明 内陸アジア世界 	提出物 小テスト 授業観察 考査 等
後期 中間	<ul style="list-style-type: none"> 東アジア世界の形成 古代中国史 東アジア文化圏の形成 	提出物 小テスト 授業観察 考査 等
後期 末	<ul style="list-style-type: none"> イスラーム世界の形成と発展 ヨーロッパ世界の形成と発展 	提出物 小テスト 授業観察 考査 等

4. 学習方法(ノートを取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

歴史は「流れをつかむこと」が大切です。「流れ」とは因果関係、すなわち原因と結果です。“風が吹けば桶屋が儲かる”という諺を知っていますね。何が「風」で何が「桶屋」か。授業では常にこのことを意識して、ノートを取ってください。そして、資料にもよく目を通すこと。絵画、写真、さらには音楽までもが生きた証人となり、当時の状況を皆さんに、文字通り五感の全てに何かを伝えようとしてきます。その語りをしっかり聞き取れる「歴史の感受性」を、この一年間で育ててくれることを期待しています。

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学 年 ・ コー ス	単 位 数
地歴公民・地理A	伊 藤 拓	2 年 ・ 文 系	2 単 位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	高校生の地理A (帝国書院)
使用副教材(出版社)	なし

3. 各期の学習内容・評価方法

学 期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	<現代世界の特色と世界の諸地域の課題> 1章 旅からとらえる現代世界 情報通信・交通、地球儀と地図(緯度と経度)、 国家と領土問題	授業プリント・考査 課題等の提出物 小テスト 授業観察、作業の取り組み
前 期 末	2章 世界の自然環境と文化 地形(大地形、河川地形、海岸地形、氷河地形) 気候(気候ごとにことなる人々の生活) 文化(宗教と言語、生活文化のグローバル化)	授業プリント・考査 夏季休業課題、その他の課題 小テスト 授業観察、作業の取り組み
後 期 中 間	3章 世界の諸地域の生活・文化 中国(自然、社会、食文化、産業、諸課題) 東南アジア(自然、歴史、文化、産業) 南アジア・西アジア(自然、文化、産業)	授業プリント・考査 課題等の提出物 小テスト 授業観察、作業の取り組み
後 期 末	ヨーロッパ(自然、文化、産業、EU) アメリカ合衆国(自然、民族、産業、日系人)	授業プリント・考査 冬季休業課題、課題等の提出物 小テスト 授業観察、作業の取り組み

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

授業ごとに配付する授業プリントは、その時間に学習する内容をまとめながら完成させる。ノートの左側に貼り、右側は板書用に空けておくこと。ノートは、定期考査終了後に提出すること。

評価は考査の他に、課題を中心とする提出物、小テスト、普段の学習状況等をもとにする。授業でも、図表や写真をもとに問題を考えることが比較的多い。暗記だけではない、問題意識を持ちながら自分で考え、自分の言葉で表現することが必要である。

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学 年 ・ コー ス	単 位 数
地理歴史・地理B	伊 藤 拓	2年・文系、理系	2単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	新詳地理B(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)
使用副教材(出版社)	最新地理図表GEO (第一学習社)

3. 各期の学習内容・評価方法

学 期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	I部 さまざまな地図と地理的技能 ・地理情報と地図(地図の種類とその利用) ・地理の活用と地域調査(地域調査の方法、地域調査実習)	授業プリント・考査 課題等の提出物 小テスト 授業観察、作業の取り組み
前 期 末	II部 現代世界の系統地理的考察 ・世界の地形(地形の成因、大地形、河川地形、そのほかの地形) ・世界の気候(気候の成り立ち)	授業プリント・考査 夏季休業課題、その他の課題 小テスト 授業観察、作業の取り組み
後 期 中 間	・世界の気候(気候区分、植生・土壌) ・日本の自然環境(地形、気候) ・環境問題(世界と日本の環境問題)	授業プリント・考査 課題等の提出物 小テスト 授業観察、作業の取り組み
後 期 末	・資源と産業(農業の地域区分、農業の現状と課題) ・食糧問題(発展途上国・先進国・日本の食糧問題)	授業プリント・考査 冬季休業課題、課題等の提出物 小テスト 授業観察、作業の取り組み

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

授業ごとに配付する授業プリントは、その時間に学習する内容をまとめながら完成させる。ノートの左側に貼り、右側は板書用に空けておくこと。ノートは、定期考査終了後に提出すること。

評価は考査の他に、課題を中心とする提出物、小テスト、普段の学習状況等をもとにする。教科書の図表や写真は、地域の現状や課題を考える題材であり、授業でも、図表や写真をもとに考えることが比較的多い。知識があるかだけでなく、資料をもとに自分で考え、自分の言葉で表現することも重要である。

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学年・コース	単位数
地理歴史科・日本史A	熊谷拓也	2年・文系	2単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	新日本史A (実教出版)
使用副教材(出版社)	

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	第1章 近代国家と社会の形成 第2章 二つの戦争と大日本帝国	学習プリント 考査等
前 期 末	第3章 帝国とデモクラシー 第4章 デモクラシーの展開と帝国の変容	夏季課題 学習プリント 考査等
後 期 中 間	第5章 アジアの戦争と第二次世界大戦 第6章 現代日本の源流	学習プリント 考査等
後 期 末	第7章 冷戦のなかの経済成長	冬季課題 学習プリント 考査等

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

「歴史学習は暗記するものではなく思考するものである」「歴史を学ぶことは今後の生き方を知ることである」

【授業】教科書を読み進めながら授業を展開します

【予習】次の授業の範囲について教科書をあらかじめ読んでおくことで理解が深まります

【復習】授業で重点化した内容を教科書で読み込むことで基本事項は定着します

【課題】長期休業には課題が出ます。取り組み状況を含めて評価対象となります。課題テストがある場合には課題から出題されます

授業に集中して臨む、予習で教科書を読み込む、復習でプリントを一読し基本事項を定着させる、課題に前向きに取り組む、以上のことをきちんと成し遂げることが勉強する、ということです。このことを継続して実践しながら、自分なりの学習方法を確立させることが大切なことです。最終的に、自分なりの勉強方法で勉強するようになると、本物になります。

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学年・コース	単位数
地理歴史科・日本史B	熊谷拓也	2年・文系	2単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	改訂版詳説日本史B (山川出版社)
使用副教材(出版社)	詳説日本史 10 分間テスト (山川出版社) 最新日本史図表 (第一学習社)

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 律令国家の形成	GW特別課題 学習プリント 10分間テストの取り組み 考査等
前 期 末	第3章 貴族文化と国風文化 第4章 中世社会の成立	夏季課題 学習プリント 10分間テストの取り組み 考査等
後 期 中 間	第5章 武家社会の成長	学習プリント 10分間テストの取り組み 考査等
後 期 末	第6章 幕藩体制の確立	冬季課題 学習プリント 10分間テストの取り組み 考査等

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

「歴史学習は暗記するものではなく思考するものである」「歴史を学ぶことは今後の生き方を知ることである」

【授業】プリント(予め配付する)を使って授業を展開します

【予習】次の授業の範囲について教科書を読み込むことで理解は深まります

【復習】10分間テストの問題を確実に解くことで基本事項が定着します

【課題】長期休業には課題が出ます。取り組み状況を含めて評価対象となります。課題テストがある場合には課題から出題されます

授業に集中して臨む、予習で教科書を読み込む、10分間テストで基本事項を定着させる、課題に前向きに取り組む、以上のことをきちんと成し遂げることが勉強する、ということです。このことを継続して実践しながら、自分なりの学習方法を確立させることが大切なことです。最終的に、自分なりの勉強方法で勉強するようになると、本物になります。

年間指導計画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授業担当者	学年・コース	単位数
地理歴史科・日本史B	熊谷拓也	2年・理系	2単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	改訂版詳説日本史B (山川出版社)
使用副教材(出版社)	詳説日本史10分間テスト (山川出版社) 最新日本史図表 (第一学習社)

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 律令国家の形成	GW特別課題 学習プリント 10分間テストの取り組み 考査等
前 期 末	第3章 貴族文化と国風文化 第4章 中世社会の成立	夏季課題 学習プリント 10分間テストの取り組み 考査等
後 期 中 間	第5章 武家社会の成長	学習プリント 10分間テストの取り組み 考査等
後 期 末	第6章 幕藩体制の確立	冬季課題 学習プリント 10分間テストの取り組み 考査等

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

「歴史学習は暗記するものではなく思考するものである」「歴史を学ぶことは今後の生き方を知ることである」

【授業】プリント(予め配付する)を使って授業を展開します

【予習】次の授業の範囲について教科書をあらかじめ読んでおくことで理解は深まります

【復習】10分間テストの問題を確実に解くことで基本事項が定着します

【課題】長期休業には課題が出ます。取り組み状況を含めて評価対象となります。課題テストがある場合には課題から出題されます

授業に集中して臨む、予習で教科書を読み込む、10分間テストで基本事項を定着させる、課題に前向きに取り組む、以上のことをきちんと成し遂げることが勉強する、ということです。このことを継続して実践しながら、自分なりの学習方法を確立させることが大切なことです。最終的に、自分なりの勉強方法で勉強するようになると、本物になります。

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学年・コース	単位数
倫理	夏谷健一	2年普通科文系	2

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	高等学校新倫理 新訂版 (清水書院)
使用副教材(出版社)	

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	現代に生きる自己の課題 人間としての自覚と生き方 ギリシャ思想(自然哲学・ソフィスト)	提出物 小テスト 授業観察 考査 等
前 期 末	人間としての自覚と生き方 ギリシャ思想(ソクラテス・プラトン・アリストテ レス)・キリスト教(ユダヤ教・イエス・スコラ哲学)	提出物 小テスト 授業観察 考査 等
後 期 中 間	人間としての自覚と生き方 仏教(バラモン教・ブッダ・大乘仏教)中国思想(儒家・ 道家) 現代社会と倫理 ルネサンス・宗教改革・科学革命・経験論・合理論	提出物 小テスト 授業観察 考査 等
後 期 末	現代社会と倫理 カント・ヘーゲル・功利主義・マルクス・実存主義 国際社会に生きる日本人の自覚	提出物 小テスト 授業観察 考査 等

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

授業前に配布する要点プリントをノートに貼付し、見開きで板書事項等をまとめていく。 提出物は期日を守って提出する。

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学年・コース	単位数
理科・生物基礎	齊藤耕子	2年・理系	2単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	改訂新編生物基礎（東京書籍）
使用副教材(出版社)	ニューグローバル生物基礎（東京書籍） サイエンスビュー生物総合資料（実教出版）

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	1編 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性（1～2節） 2章 生命活動とエネルギー（1～4節） 2編 遺伝子とその働き 1章 生物と遺伝子（1～2節） 2章 遺伝情報の分配（1～3節） 3章 遺伝情報とタンパク質の合成（1～2節）	出席率、授業態度 小テスト、提出物 定期考査
前 期 末	3編 生物の体内環境の維持 1章 体内環境の維持（1～3節） 2章 体内環境を保つしくみ（1～3節） 3章 体内環境を守るしくみ（1～2節） 4編 生物の多様性と生態系 1章 植物の多様性と遷移（1～3節） 2章 バイオームとその分布（1～2節） 3章 生態系とその保全（1～4節）	出席率、授業態度 小テスト、提出物 定期考査

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

「生物基礎」は2単位科目ですが、前期に週4時間の授業を行い後期には「生物」を行います。従って、他教科と異なり前期で成績（5段階評定）が確定してしまいます。つまり、「後期で頑張らなくて挽回しよう」というわけにはいきません。注意してください。

生物を学ぶ上で最も大切なことは、図・表から何が分かるかを常に考える必要があります。この思考が今後の模試に活用できます。普段の学習プリントはもちろんですが、授業でのポイントを書き留める工夫も生物を学ぶ上で大切です。

「生物は暗記科目だ」とよく言われますが、暗記だけでは得点を向上させることは難しい科目です。問題文の内容を正しく判断する読解力と分析力、思考力が求められます。生物基礎の範囲は医療系に進む生徒にとっては大事な単元が含まれています。

家庭では、授業で学んだことを問題集で確認してください。難問題を解く力は必要ありません。最低でも教科書の例題が解けるようになってください。

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学年・コース	単位数
理科・物理基礎	佐々木 倫郎	2年・理系	2単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	改訂版 新編 物理基礎 (数研出版)
使用副教材(出版社)	物理基礎学習ノート (数研出版)

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	第1編 運動とエネルギー 運動の表し方：速度、加速度、落体の運動 運動の法則：力、運動方程式、摩擦力、浮力 仕事とエネルギー：仕事、エネルギー保存の法則	GW特別課題 学習ノート 実験の取り組み 考査 等
前 期 末	第3編 波 波の性質：波の表し方、重ね合わせの原理 音：音の性質、振動と共振 第4編 電気 電気の性質：電流と抵抗、電気とエネルギー	夏期課題 学習ノート 夏期課題研究 考査 等

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

「物理基礎」は2単位科目ですが、前期に週4時間の授業を行い後期には「物理」を行います。従って、他教科と異なり前期で成績(5段階評定)が確定してしまいます。つまり、「後期で頑張って挽回しよう」というわけにはいきません。注意してください。

物理を学ぶ上で最も大切なことは、図の意味を考えながらノートをとることです。矢印の長さや向き、どこから始まるのか注意してください。板書を取りながら、私がしゃべるポイントをノートに取れるようになって欲しいものです。

物理は数学だとよく言われますが、物理基礎で使う数学はほぼ中学校の範囲です。高校1年生の数学I・Aが必要なのはあまり多くありません。

家庭では、授業で学んだ問題を自力で解いてください。難問題を解く力は必要ありません。最低でも教科書の例題が解けるようになってください。

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学年・コース	単位数
理科・生物	齊藤耕子	2年・理系	2単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	生物 (東京書籍)
使用副教材(出版社)	ニューグローバル生物 (東京書籍) サイエンスビュー生物総合資料 (実教出版)

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	/	/
前 期 末	/	/
後 期 中 間	1編 生命現象と物質 1章 生体物質と細胞 2章 タンパク質の構造と酵素 3章 細胞間の相互作用とタンパク質 ほか	授業態度 学習プリント 発表の内容 レポート・課題の取り組みなど
後 期 末	2編 遺伝子の働き 1章 DNAの構造と複製 2章 遺伝情報の発現 3章 遺伝子の発現調節 ほか	授業態度 学習プリント 発表の内容 レポート・課題の取り組みなど

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

<ul style="list-style-type: none"> ・授業は、内容を理解すること、必要事項をしっかりとメモすること。 ・問題演習を繰り返し行うこと ・授業で分からないことはその場で解決する意欲が必要です。
--

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学 年 ・ コー ス	単 位 数
理科・物理	佐々木 倫郎	2 年 ・ 理 系	2 単 位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	物理 (数研出版)
使用副教材(出版社)	リード Light ノート 物理 (数研出版)

3. 各期の学習内容・評価方法

学 期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間		
前 期 末		
後 期 中 間	力と運動 剛体 運動量の保存	学習ノート 考査 等
後 期 末	力と運動 円運動と万有引力 熱と気体 熱とエネルギー、気体の法則	冬期課題 学習ノート 考査 等

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

物理基礎で学んだ事柄の上に立ってさらに深く自然現象を数的に考えてゆく。これまで以上に、数学的な力や思考力が求められるので、必ず家に帰ったら授業で学んだ問題を自力で解き直すこと。

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学年・コース	単位数
理科・化学	佐藤 潤一	2年・理系	3単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	改訂版 化学 (数研出版)
使用副教材(出版社)	進研 WINSTEP 化学 新課程版 (Learn-S)

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	化学基礎分野の復習 第2章 電池と電気分解 電池・・・ボルタ電池 ダニエル電池 鉛蓄電池 電気分解・・・ファラデー定数 工業的製法	GW特別課題 ポートフォリオ評価 観察実験の取り組み 考査 等
前 期 末	第一編 物質の状態 第1章 粒子の結合と結晶 結合・結晶・単位格子 第2章 物質の状態変化 物質の三態 気液平衡・蒸気圧	夏期課題 ポートフォリオ評価 考査 等
後 期 中 間	第3章 気体 ボイルシャルル 気体の状態方程式 混合気体 第4章 溶液 溶解度 希薄溶液の性質 コロイド	夏期課題 ポートフォリオ評価 考査 等
後 期 末	第二編 第1章 化学反応とエネルギー 化学反応と熱 化学反応と光 第3章 化学反応の速さとしくみ 反応条件 反応速度 第4章 化学平衡	夏期課題 ポートフォリオ評価 考査 等

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

各自で授業の振り返りを規定の用紙にまとめ、それをポートフォリオとして蓄積します。考査や模試の際に自身が重要と感じた復習できるようにまとめましょう。

問題集の WINSTEP は基礎から模試レベルまであり、基礎は確実に習得し、その基礎を様々な問題でどのように使っていくのかを学習しましょう。

授業スタイルは発問、グループ学習がメインで進めます。主体性をもって自身の考えを相手に伝えられるようになって下さい。

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学年・コース	単位数
理科・生物基礎	森田 義広	2年・文系	2単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	改訂新編生物基礎 (東京書籍)
使用副教材(出版社)	ニューグローバル生物基礎 (東京書籍) サイエンスビュー生物総合資料 (実教出版)

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	1編 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性 (1～2節) 2章 生命活動とエネルギー (1～4節)	出席率、授業態度 小テスト、提出物 定期考査
前 期 末	2編 遺伝子とその働き 3章 生物と遺伝子 (1～2節) 4章 遺伝情報の分配 (1～3節) 5章 遺伝情報とタンパク質の合成 (1～2節)	出席率、授業態度 小テスト、提出物 定期考査
後 期 中 間	3編 生物の体内環境の維持 3章 体内環境の維持 (1～3節) 4章 体内環境を保つしくみ (1～3節)	出席率、授業態度 小テスト、提出物 定期考査
後 期 末	5章 体内環境を守るしくみ (1～2節) 4編 生物の多様性と生態系 1章 植物の多様性と遷移 (1～3節) 2章 バイオームとその分布 (1～2節) 3章 生態系とその保全 (1～4節)	出席率、授業態度 小テスト、提出物 定期考査

4. 学習方法(ノートを取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

<ul style="list-style-type: none"> ・授業は、内容を理解すること、必要事項をしっかりとメモすること。 ・ノートは家庭学習でまとめる。(定期考査持ち込み可)
--

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学年・コース	単位数
英語・英語表現Ⅱ	佐々木知華 津沢 智重 稲垣 康和	2年・全	2単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	Vision Quest English Expression Ⅱ (啓林館)
使用副教材(出版社)	なし

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法	
前 期 中 間	Part 1-Lesson 1	a.25 %	b.25 %
	Part 1-Lesson 2	c.30 %	d.20 %
	Activity for Communication①	a.50 %	b.50 %
前 期 末	Part 1-Lesson 3	a.25 %	b.25 %
	Part 1-Lesson 4	c.30 %	d.20 %
	Activity for Communication②	a.50 %	b.50 %
後 期 中 間	Part 1-Lesson 5	a.25 %	b.25 %
	Part 1-Lesson 6	c.30 %	d.20 %
	Activity for Communication③	a.50 %	d.50 %
後 期 末	Part 1-Lesson 7	a.25 %	b.25 %
	Part 1-Lesson 8	c.30 %	d.20 %
	Activity for Communication⑤ *④に代わって⑤	a.50 %	d.50 %

*評価対象 a.授業に対する意欲 b.表現の能力（書くこと・話すこと）
c.理解の能力（聞くこと・読むこと） d.言語や文化についての知識・理解

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

1. 授業中、英語を声に出しながら、重要なポイントは自ら整理してノートをとる。
2. 課題を通して、予習・復習の習慣を確立する。
3. 学習内容を応用し、英語で自分の考えを表現出来るように、エッセイライティング、プレゼンテーション（音読含む）に意欲的な取組をする。

年間指導計画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授業担当者	学年・コース	単位数
英語・コミュニケーション英語Ⅱ	佐々木知華 津沢 智重	2年・全	4単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	LANDMARK Fit English Communication II (啓林館)
使用副教材(出版社)	なし

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法	
前期 中間	Lesson 1 I'm the Strongest!	a.25 %	b.20 %
	Lesson 2 Tokyo's Seven-minute Miracle	c.35 %	d.20 %
前期 末	Lesson 3 Saint Bernard Dogs	a.25 %	b.20 %
	Lesson 4 Chanel's Style	c.30 %	d.20 %
後期 中間	Lesson 5 Science of Love	a.25 %	b.25 %
	Lesson 6 Gaudi and His Messenger	c.20 %	d.20 %
後期 末	Lesson 7 Letters from a Battlefield	a.20 %	b.30 %
	Lesson 8 Edo: a sustainable Society	c.20 %	d.30 %

*評価対象 a.授業に対する意欲 b.発表(内容・態度) c.課題等の提出(内容・期限)
d.小テスト・定期考査

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

<ul style="list-style-type: none"> ・評価対象の具体的な基準は次の通りである。 a. 「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。 b. 情報や考えなどについて英語で話し合ったり意見交換をすることが出来る。 c. 内容をしっかりとらえ、丁寧な取組で期限を守り提出することが出来る。 d. 英語の仕組み、言葉の意味や働きなどを理解し、言語の背景にある文化を理解している。 <ul style="list-style-type: none"> ・予習を中心とした課題に意欲的に取り組む。 ・学んだことに基づき、情報や考えなどを簡潔に英語で述べたり、書いたりする習慣をつける。

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学年・コース	単位数
保健体育・体育	澤村勇一・菊池 暁	2年	2単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	
使用副教材(出版社)	Active sports 2017 (大修館書店)

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・陸上競技 (スポーツテスト) ・球技 (ネット型) 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参加の仕方や意欲、態度 ・個人記録票の活用 ・タイム計測
前 期 末	<ul style="list-style-type: none"> ・水泳 ・球技 (ベースボール型) ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参加の仕方や意欲、態度 ・タイム計測 ・技能テスト ・小テスト
後 期 中 間	<ul style="list-style-type: none"> ・球技 ・ダンス ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会の開催 ・自己評価票の記述内容 ・小テスト
後 期 末	<ul style="list-style-type: none"> ・球技 (ゴール型) 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参加の仕方や意欲、態度 ・グループ内での相互評価

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

<ul style="list-style-type: none"> ・個人やペアでの補強運動(体づくり運動)で、自他の体の調子を整え、体力を高めるための運動ができるようにする。 ・陸上競技、水泳では、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わいながら、自己に適した運動の効率を高めるようにする。 ・球技、武道、ダンスから4～5種目を選択し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ・体育理論では、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴について理解できるようにする。
--

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学 年 ・ コー ス	単 位 数
保健体育・保健	澤村勇一・菊池 暁	2 年	1 単 位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	現代高等保健体育（大修館書店）
使用副教材(出版社)	現代高等保健体育ノート（大修館書店）

3. 各期の学習内容・評価方法

学 期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 思春期と健康 ・ 性意識と性行動の選択 ・ 結婚生活と健康 ・ 妊娠、出産と健康 ・ 家族計画と人工妊娠中絶 ・ 加齢と健康 	授業参加意欲・態度観察記録 保健ノート小問題
前 期 末	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者のための社会的取り組み ・ 保健制度とその活用 ・ 医療制度とその活用 ・ 医薬品と健康 ・ さまざまな保健活動や対策 	授業参加意欲・態度観察記録 定期考査 保健ノート小問題
後 期 中 間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気汚染と健康 ・ 水質汚濁・土壌汚染と健康 ・ 健康被害の防止と環境対策 ・ 環境衛生活動のしくみと働き 	授業参加意欲・態度観察記録 保健ノート小問題
後 期 末	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食品衛生活動のしくみと働き ・ 食品と環境の保健と私たち ・ 働くことと健康 ・ 労働災害と健康 ・ 健康的な職業生活 	授業参加意欲・態度観察記録 定期考査 保健ノート小問題

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書、学習ノートを使用して講義形式を中心に進める。 ・ 必要に応じて関連資料を適切に活用し学習効果を高める。 ・ 実験や実習を通じ、場に応じて適切に行動するための知識や技能を養う。 ・ 課題学習によって各単元の内容の理解を深め、実践力を養い、生活活動に生かす。
--

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学 年 ・ コー ス	単 位 数
芸 術 ・ 音 楽 II	中 村 桂 子	2 年 ・ 選 択	2 単 位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	音楽Ⅱ T u t t i (教育出版)
使用副教材(出版社)	M U S I C N O T E (啓隆社)

3. 各期の学習内容・評価方法

学 期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	【歌唱】 合唱 (J-ポップ) 【楽典】 音名・リズム練習 【器楽】 ピアノ	活動への意欲・関心・態度 ワークシート 実技テスト
前 期 末	【歌唱】 日本の歌 (童謡・唱歌)・ケチャ 【鑑賞】 ミュージカル・世界の民族音楽 【楽典】 リズム練習	活動への意欲・関心・態度 ワークシート 実技テスト
後 期 中 間	【器楽】 アルトリコーダー 【鑑賞】 日本の伝統芸能 【楽典】 クラッピングアンサンブルでのリズム練習	活動への意欲・関心・態度 ワークシート 実技テスト
後 期 末	【歌唱】 合唱 【器楽】 アルトリコーダーアンサンブル 【鑑賞】 ミュージカル2	活動への意欲・関心・態度 ワークシート 実技テスト

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞ワークシートやチェックシートは、空欄なく記入し提出すること。 ・アルトリコーダーは練習するだけ上達するので、根気強く練習すること。 ・歌唱テストは別室にて行う。リコーダーは発表会形式で行う。
--

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学年・コース	単位数
芸術・書道Ⅱ	藤村 幸子	2年・文系選択	2単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	書道Ⅱ (光村出版)
使用副教材(出版社)	五体字類、漢和辞典、書学習の資料

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	【隷書】 ・多様な隷書表現を理解し、臨書する。 ・それぞれの作品を鑑賞し、美しさを味わい、理解を深める。	作品 学習へ取り組み状況
前 期 末	【楷書】 ・多様な楷書表現を理解し、臨書する。 ・それぞれの作品を鑑賞し、美しさを味わい、理解を深める。	作品 学習へ取り組み状況
後 期 中 間	【行書】 ・多様な行書表現を理解し、臨書する。 ・それぞれの作品を鑑賞し、美しさを味わい、理解を深める。	作品 学習へ取り組み状況
後 期 末	【草書と仮名の書】 ・多様な草書、仮名の書の表現を理解し、臨書する。 ・それぞれの作品を鑑賞し、美しさを味わい、理解を深める。	作品 学習へ取り組み状況

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

<ul style="list-style-type: none"> ・授業には真面目に取り組む。 ・作品はより良いものを期限までに仕上げる。

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学 年 ・ コー ス	単 位 数
芸術・美術Ⅱ	千葉 裕子	2年・文系選択	2単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	高校生の美術2 (日本文教出版)
使用副教材(出版社)	画集、図鑑、事典など

3. 各期の学習内容・評価方法

学 期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	【絵画/鑑賞】 琳派-継承と創造の系譜 ・ 作品を鑑賞し技法や作家による違いを知る。 【絵画/表現】 日本画を描く ・ 日本画の技法で花を描く。	活動への意欲・関心・態度 ワークシート 作品の内容
前 期 末	【デザイン/鑑賞・表現】 日本の色と形 ・ 伝統的な形や色、技法を使って、ハンカチをデザインする。 【デザイン/表現】 紙の特性を生かして作る ・ グリーティングカードをデザインする。	活動への意欲・関心・態度 ワークシート 作品の内容 小テスト
後 期 中 間	【彫刻/表現】 金属の彫刻 ・ 金属で彫刻をつくる。 【彫刻/鑑賞】 日本の仏像 ・ 日本の仏像を鑑賞し、時代や材料、技法による違いを知る。 【絵画/鑑賞】 浮世絵とジャポニズム ・ 浮世絵版画を鑑賞し、日本文化と西洋文化の関係をを知る。	活動への意欲・関心・態度 ワークシート 作品の内容
後 期 末	【絵画/表現】 いろいろな版画 ・ 木版の技法を使って木版を制作する。 【映像メディア表現/鑑賞】 アニメーション ・ グループで協力し、アニメーションを制作する。	活動への意欲・関心・態度 ワークシート 作品の内容 小テスト

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 各題材のねらいに応じた実技課題に真面目に取り組み、期限までに完成させて提出すること。 ・ 鑑賞ワークシートや小テストのためのプリントには、空欄なく記入し提出すること。 ・ 材料、用具の扱いの際は、先生からの注意事項を守り、安全に留意し制作すること。
--